

「忘却曲線」 鳥居美智子

春

紅梅白梅水をへだてて割ぜりふ

まだ声のとどくと思ふしだれ梅

片栗の咲きしをけふの片便り

桜待つ胃に落すもの熱うして

エデンの東うたふ時計や鳥雲に

彼岸会の泪を足しに来る雀

忘却曲線にはかに狂ふ竹の秋

夏

あぢさゐの八岐に脚濡らしゆく

攻防の坂の果や沙羅双樹

短夜を使ひ果して泳ぐ夢

尺蠖の五体投地や昼の月

おろおろとすまじき一日黒日傘

草笛を花笛に代へ子を捕るか

夜光虫誰がよ誰がよと宥めても

テネシーワルツ哀歌とおもふ籠枕

秋

蟬しぐれまんだら堂をひた隠し

服薬時報新盆の夜も鳴れり

空蟬のそれぞれ十日物語

階上も階下も厄日鳩時計

遠国の匂ひと思ふ夕野分

ハニートースト秋風の港街

月佳けれ我が生涯の山月記

水見舞フランス麴麴と野の花と

名残の月遠出の杖をえらぶかな

冬

綿虫をときどき放ち老いゆく樹

小啄木鳥けふいづこに宿る雪景色

雪搔いてたましひ通ふほどの径

水仙の辺を去りがての杖の跡

寒晴やひとり息子の静電気

三寒四温ひとりに馴れてゆくりズム